

はじめに

本書は小説風のストーリー仕立てになっているので、誰でも簡単に内容を理解できるように作られている。全ての人に読んでもらいたかったからこそ、あえて、ビジネス書としては珍しいスタイルで本書を執筆させてもらった。

「私には株式公開も事業売却も関係ない」

そういう人でも、絶対に本書を読めば、自分の仕事にプラスになることがあると断言してもいい。

例えば、「上場」に関しては、経営者、従業員に関係なく、今の慢性化した業務を、必ず明るい未来に導いてくれるノウハウになってくれる。特に自分の将来やなんとなく毎日にモヤモヤ感がある人は、おそらく、専門用語を何も理解できなくても、すんなり本書の内容に入っていけるはずである。

「今の平凡な生活でも、一発逆転の人生になる可能性があるんだ」

そういう思いにさせてくれる、ドラマチックな内容になっている。安っぽい言葉でし

か表現できなくて申し訳ないが、「元氣」にさせてくれる内容であることは保証させてもらいたい。

また、「M&A」も、万人に読んでもらいたい項目のひとつである。

「会社」という商品を買ったり、買ったりするということを考えれば、冷静になって自分の携っている会社の「価値」というものが見えてきたりするものである。

果たして世の中を買ってもらえるような価値のある会社の仕事をしているのか？

それとも、誰も欲しがらないような会社で働いているのか？

本書を読めば、冷静に社会における自分の「立ち位置」というのを再確認できるはずである。

さらに付け加えて本書の必要性を語るとすれば、今、働いている会社がいつ株式公開をするか分からないし、どこかの会社に売却されるかも分からないので、危険回避知識のひとつとしても読んでもらいたい。

「絶対的に安定な収入」という言葉が崩壊した以上、働く全ての人が常に「上場」と「M&A」という世界にさらされていると言っても過言ではない。

防災グッズを押し入れにしまっておくような感覚で、本書を一読しておく価値は十分に

あると思う。

なお、本書は株式公開とM&Aのプロである公認会計士・青木寿幸氏の監修と、私、マーケティングを専門とする経営コンサルタント・竹内謙礼の共同執筆により一冊の本となっている。

もちろん内容はフィクションではあるが、実際に会計士やコンサルタントとしての実体験に基づいて執筆しているので、「仮名」程度で話が進められていると解釈してもらっても構わない。

みなさんが日頃読んでいるビジネス書とはテイストが少し違うと思うが、肩の力を抜いて、テレビドラマでも観ているような感覚で、最後まで読み進めてもらえれば幸いである。

著者・竹内謙礼 監修・青木寿幸